

第13回 卒業設計コンクール展 開催

埼玉建築設計監理協会の法人化30周年を機に始まった卒業設計コンクール展は、趣旨に賛同いただいた多くの企業・団体、共催・協賛団体の協力により、埼玉会館を会場に4月13日(土)から17日(水)迄の5日間にわたり盛大に開催されました。

今年も、9大学から選抜された26名の力作が会場いっばいに展示されました。最終日には上田清埼玉県知事も視察し、「夢を持ち新しいことにチャレンジすることが大切で、そこから新しい技術が生まれる」と若い才能を称える感想を述べられました。



◆開催主旨

都市や建築デザインにもICT革命時代にふさわしい斬新な発想が求められている。そのような中、新しい世紀の第一線で活躍が期待される建築系学生の能力向上、育成を図る目的で、次代を先取りした意欲ある作品を広く募集し、若い学生達の考えた創造価値と熱意を奨励し、また一般の方々にアピールを行う。



各賞受賞者の皆さん



埼玉賞受賞の荻野さんから説明を受ける上田知事
(埼玉建設新聞より)



最優秀賞の阿部佑哉さんと桑子会長



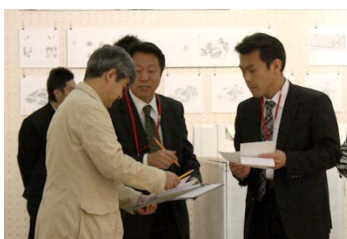
公開審査風景



懇親会場での受賞した女性陣、リラックス！



テレ玉の取材も入りました



若者の未来も左右する審査結果？ 審査では先生方、かなり悩んでいます



■実施概要

対象	業設計を対象とし、個人作品とする。各学校3作品以内とする。 ただし、埼玉賞に関しては各大学3年生以下の1作品出展可。
テーマ	各人の選定したテーマ。地元「埼玉」について積極的に考え、課題を掘り起こした作品を「埼玉賞」として設ける。
賞	最優秀賞：1作品 埼玉賞：1作品 優秀賞：2作品 特別審査員賞：2作品 さいたま住宅検査センター賞：2作品 総合資格学院賞：2作品 JIA 埼玉賞：1作品
作品展示	平成25年4月13日～平成25年4月27日（埼玉会館 第3展示場）
審査・表彰式	平成25年4月14日

■審査委員名簿

(敬称略)

◇特別審査員（大学の先生・来賓）

◇一般審査委員（協会委員）

学校名・会社名	氏名	氏名	役職
芝浦工業大学（審査委員長）	衣袋 洋一 先生	栗子 喬	会長
芝浦工業大学	澤田 英行 先生	高岡 敏夫	相談役
日本工業大学	吉村 英孝 先生	片淵 重幸	相談役
東洋大学	篠崎 正彦 先生	大川 紀夫	副会長
東洋大学（オブザーバー）	櫻井 義夫 先生	長谷部常美	副会長
東京理科大学	呉 鴻逸 先生	田中 芳樹	副会長
東京電機大学	八木 敦司 先生	■県内建築系学生奨励事業特別委員会	
武蔵野美術大学	布施 茂 先生	井上 忠孝	委員長
日本大学	川岸 梅和 先生	古橋 一廣	委員
ものづくり大学	八代 克彦 先生	高梨 智浩	委員
埼玉県都市整備部建築安全課	橋 裕子 課長	山田 慎一	委員
さいたま市建設局建築部営繕課	細田真由美 課長	齋藤 文博	委員
(一社)日本建築学会埼玉支所	樋口 和男 幹事	村山 隆之	委員
(公社)日本建築家協会 JIA 埼玉	三浦 清史 代表	木川 元守	委員
(社)埼玉建築士会	黒須 弘年 副会長	原口 剛	委員
(一社)埼玉県建築士事務所協会	佐藤 啓智 副会長		
(一社)埼玉県建設産業団体連合会	和田 博 常務理事		
(一財)さいたま住宅検査センター	岩崎 宏 理事		

■主催・共催等

(主催)	(社)埼玉建築設計監理協会	(協賛)	(社)埼玉県建設業協会
(共催)	(一社)日本建築学会埼玉支所		(財)埼玉県建築住宅安全協会
	(社)埼玉建築士会		総合資格学院
	(一社)埼玉県建築士事務所協会	(賛助)	各種団体、企業
	(公社)日本建築家協会 JIA 埼玉	(後援)	埼玉県、さいたま市、テレビ埼玉
	(一社)埼玉県建設産業団体連合会		
	(一財)さいたま住宅検査センター		

■協賛・賛助会社 (順不同)

(一社)埼玉県建設業協会 (一社)日本建築学会埼玉支所 (公社)日本建築家協会 JIA 埼玉
 (社)埼玉建築士会 (一社)埼玉県建築士事務所協会 (財)埼玉県建築住宅安全協会
 (一社)埼玉県建設産業団体連合会 (一財)さいたま住宅検査センター
 総合資格学院 大宮校・越谷校・川越校 生和テクノス(株) TOTO(株) 帝国機材(株)
 大成建設(株) スミダ工業(株) 株田中工務店 柏木建設(株) 吾妻工業(株) (株)佐伯工務店
 矢作建設工業(株) (株)八洲電業社 (株)蓮見工務店

■卒業設計コンクール出品作品・審査結果

最 優 秀 賞	阿部 佑哉	工学院大学工学部建築都市デザイン学科
		【廃棄物】-認識転換場 ～清掃工場における廃棄物に対する一般認識の再構築～
埼 玉 賞	荻野 克真	芝浦工業大学工学部環境工学部環境工学部環境工学部
		「また川が教えてくれること」 -場所性を享受できるロードサイド建築の創造-
優 秀 賞	田中 裕大	武蔵野美術大学造形学部建築学科
		選宅
優 秀 賞 J A 埼玉賞	那 音 太	ものづくり大学技能工芸学部建設学科
		「紅い星の村 ウランオジュ」計画 -家族と家畜で創る草原の国内モンゴルのまちづくり-
特 別 審 査 員 賞	佐藤 康平	芝浦工業大学工学部環境工学部環境工学部
		新しい「寺」
特 別 審 査 員 賞	佐藤 仁美	武蔵野美術大学造形学部建築学科
		Heart washing room -こころの洗濯-
特 別 審 査 員 賞	橋本 秋奈	東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科
		空間の集積がつくりだす風景
特 別 審 査 員 賞 総合資格学院賞	木次 貴寛	日本工業大学工学部建築学科
		土と生活する -農園シェアハウス-
埼玉住宅検査センター	高井 志帆	武蔵野美術大学造形学部建築学科
		D-apartment ~アトリエのある暮らし~
総合資格学院賞	中橋茉優子	芝浦工業大学工学部環境工学部環境工学部
		田んぼとの暮らしかた -地産地消によるコミュニティの再建-
奨 励 賞	坂本 匡平	東洋大学理工学部建築学科
		駅上の蔵街 -駅に都市を埋蔵する-
	藤塚 廉	東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科
		記憶の積層
	木村 才人	東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科
		まちを結わういちば おおみや
	藍場 弘充	日本工業大学工学部建築学科
		ダレガイテモイイ -都心に居場所と交流をつくる貸し空間屋-
	軽部弥瑞紀	日本工業大学工学部建築学科
		ちいさなまち -遊んで育つ保育園-
	小野晃次郎	工学院大学工学部建築学科
		地平と生きるまち
	山本 晃平	工学院大学工学部建築学科
		群像都市
	瀬野 建人	東京理科大学工学部Ⅱ部建築学科
		集个体 -趣味的空間の集合によって構成される駅前再開発計画の提案-
	岡本小百合	東京理科大学工学部Ⅱ部建築学科
		かすがいの場 ~子どもと高齢者の触れ合いによるコミュニティの構築~
	田中 隆史	東京電機大学未来科学部建築学科
		裏浅草 -地元住民の為の地域コミュニティ施設-
山川万里奈	東京電機大学未来科学部建築学科	
	町と人を紡ぐ -人生の節目を迎える市役所-	
堀越 鈴香	東京電機大学理工学部理工学部	
	GURURI HOUSE	
河端 弓子	日本大学生産工学部建築工学科	
	え?どこ?えっ!ここだ!!えっここだハウス	
箕嶋小百合	日本大学生産工学部建築工学科	
	巢まい。-路上生活者とすみだ-	
吉崎祐紀子	日本大学生産工学部創生デザイン学科	
	Ecommunity town	
谷岡 俊紀	ものづくり大学建設技能工芸学科	
	円ゲーシング 婚活×シェアハウス	

受賞作品

最優秀賞

阿部佑哉

工学院大学工学部建築都市デザイン学科

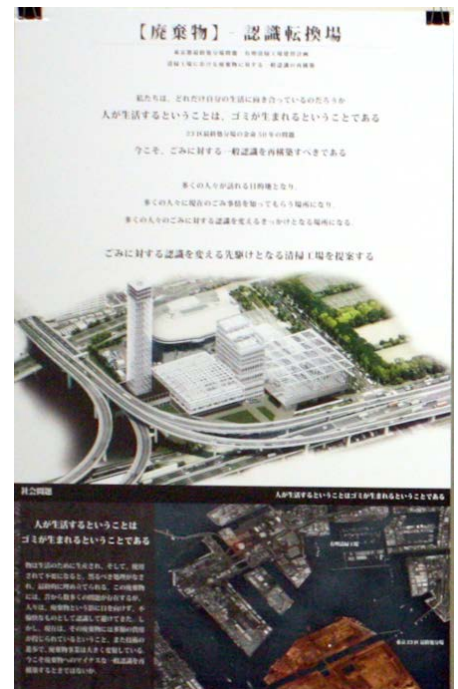
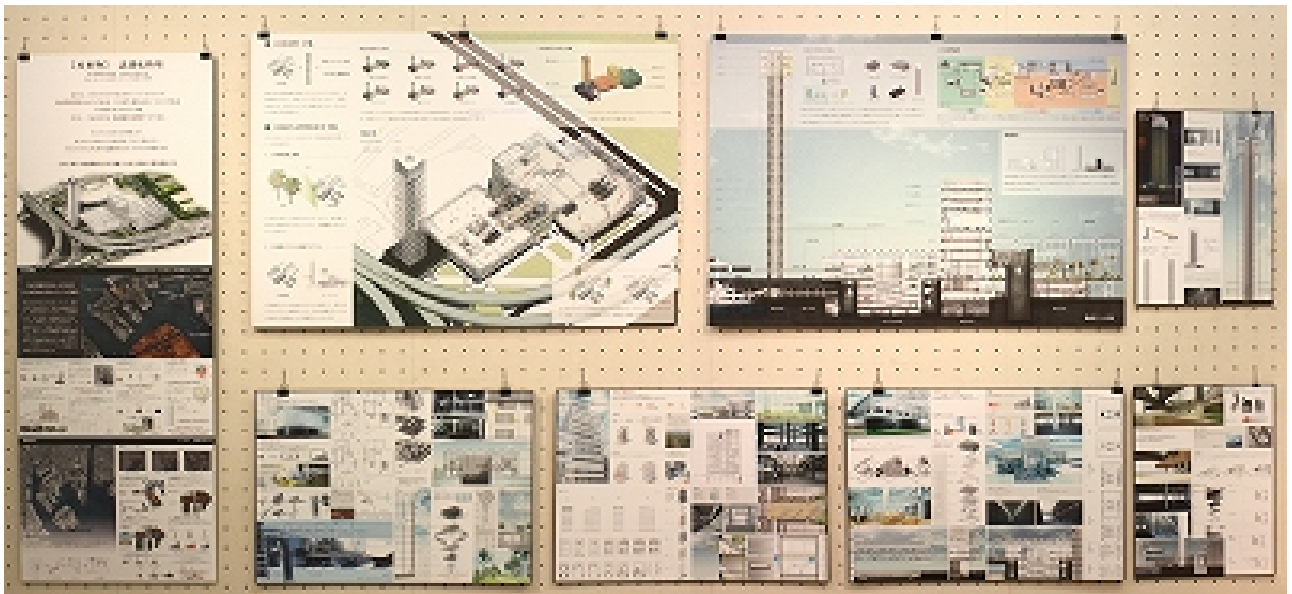
【廃棄物】-認識転換場

～清掃工場における廃棄物に対する一般認識の再構築～



人が生活するという事は、ごみが生まれるということです。廃棄物には、昔から数多くの問題が存在し、現在も 23 区の最終処分場余命 50 年問題などが存在しますが、人々は、廃棄物という影に目を向けず、不愉快なものとして認識し、避けてきました。それは、清掃工場にも言えます。

有明清掃工場が立て替えされると仮定し、清掃工場を NIMBY ではなくするために、清掃工場の機械やシステムが生み出す非日常的な空間や風景を作り出し、それを体験し、見ることで、廃棄物事業に対する認識に変化が生まれます。そこから、自然とゴミ問題を考えるきっかけが生まれ、最終処分場や清掃工場、廃棄物に対する認識を転換させる清掃工場を提案します。



受賞作品

埼玉賞

荻野克眞

芝浦工業大学IT理工学部環境システム学科

「また川が教えてくれること」

—場所性を享受できるロードサイド建築の創造—



街並みも生活も土地の自然や風土とは無関係になったロードサイドショップ。

本提案では、生産・生活の拠点であった川に食の空間を設け、ロードサイドショップと川をつなぐ用水路に生産の場を与える。用水路に面した残余空間で作物や加工品が作られ、人々は生産品を川辺の空間で消費する。ロードサイドショップの背後に隠れた川を再生することで、また川は人々に場所の意味や固有性を教えてくれる。



受賞作品

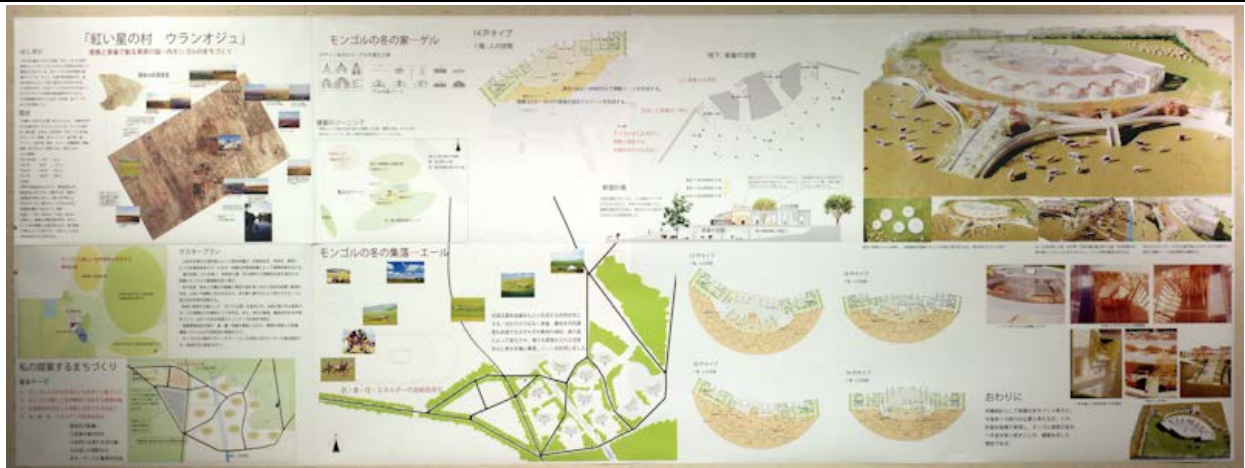
優秀賞 田中裕大 武蔵野美術大学造形学部建築学科
選宅

『絆』は時に『鎖』に変わる。固定的な強いつながりは、時に『鎖』で人々を繋いでしまう。選宅は、身近にある複数のオープンスペースを個人が自由に選択しながら過ごしていく集合住宅の提案である。選宅は選択的な関係性を生み、流動的な弱いつながりを築き、鎖を解いていく。



優秀賞 JIA賞 那音太 ものづくり大学技能工芸学部建設学科
「紅い星の村 ウランオジュ」計画
一家族と家畜で創る草原の国内モンゴルのまちづくりー

1950年以後のこの60年間、内モンゴルでは国の政策によってモンゴル文化と地域の風俗が失われ、自然環境も破壊されてきた。現代の内モンゴルでは、中国の経済発展や衣・食・住の中国化によって、さらに状況は深刻化している。その中で、私は歴史あるモンゴル文化を守りながらのモンゴルにおける新たな住まいの形態、街づくりを考えた。私の生まれ故郷である「紅い星の村 ウランオジュ」計画で提案する。脈々と続くモンゴルの文化、風俗と共に、家族の在り方、家畜との共存及びモンゴルの自然との関係性等について考えた



受賞作品

特別審査員賞

佐藤康平

芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科
新しい「寺」

対象敷地は赤羽にある城跡。

再開発地区と木造住宅密集地区に挟まれた遺跡のような場所。かつて町の文化や人の賑わいの中心であった「稲付城」という城の跡地に、それを讃えるための「静勝寺」というお寺が建っている。

閉ざされた城跡を街に対して開くことで、かつての「稲付城」を讃えるに相応しい現在の人や街の中心となるような新しい「寺」を提案する。バラバラになってしまった現在の街にある様々な営みが、新しい「寺」を中心に、ふたたび一つになっていく風景を考えた。



特別審査員賞 総合資格学院賞

木次貴寛

日本工業大学工学部建築学科

土と生活する — 農園シェアハウス —

東北地方太平洋沖地震の後、人とのつながりを求めてシェアハウスの利用者が増えている。また、農業に興味を持ち、安心な野菜などを自分で作りたい人達も数多くいる。そこで、農園を共有して、作物を育てながら生活できるシェアハウスを計画した。



受賞作品

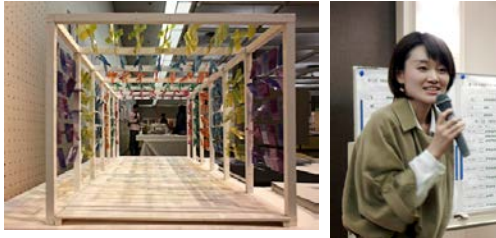
特別審査員賞

佐藤仁美

武蔵野美術大学造形学部建築学科

Heart washing room -こころの洗濯-

光と色を使って、人々の内にあるエネルギーを引き出し、ポジティブなものに転換する空間です。
2012年の1月から実験が始まりました。茨城→新潟→東京で展示を行い、多くの方に体験して頂きました。



特別審査員賞

橋本秋奈

東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科
空間の集積がつくり出す風景



住宅とフリースクールを複合させることで生まれる、新たな生活風景を提案します。二つのプログラムが混ざり合い現れる風景は、その土地の表情となり、生活の中に溶け込みながら私たちの日常に降り注ぎます。

私は卒業設計を考えるにあたって、自分が思い入れのある地で、その街の特殊性を要素として生かしながら作り出せる風景をテーマとして、構想を組み立ててきました。

1つ1つの空間に自分なりのストーリーを創造し、それらを集積させることで作り出される生活や行動のシーンは、この地に還元され、この地を映し出す新たな生活風景となります。



受賞作品

総合資格学院賞

中橋茉優子

芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科

田んぼとの暮らしかた

—地産地消によるコミュニティの再建—

かつて人々の生活を支えていた見沼田んぼ。
しかし、現在は地域コミュニティを断絶する存在となっている。
その田ぼをインターフェースに、地域コミュニティを再建するきっかけとなる場を構築する。



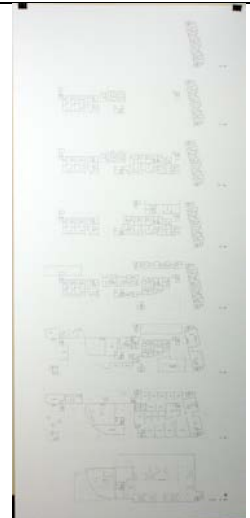
埼玉住宅検査 センター賞

高井志帆

武蔵野美術大学造形学部建築学科

D-apartment ~アトリエのある暮らし~

現在、台東区上野には昭和4年に同潤会によって建てられたアパートメントがあります。ここは同潤会が建てたアパートの中で現存する最後のアパートです。そこで私はこの敷地に新しい同潤会アパートの意思を受け継ぐ都市型集合住宅を計画します。単身者向け住戸と家族向け住戸を混在させ、さらにそこに短期宿泊者用としてアトリエを設けました。このアトリエは様々な使い方ができ、外部の人の往来が加わることで生活に刺激を与えてくれます。



総 評

昨年度の総評において「東日本大震災に関連したテーマ、内容が提出されるという期待は裏切られ、ここ数年の傾向、単純な機能の施設（斎場、死の空間）が選択され、今年度も変わらなかった」と述べた。しかし、よく読み取り観察すると深層において、社会における閉塞感、沈滞感を底辺とし、①柔らかなテーマ（シェアハウス・交流・群れる・共同・協働等）、②違った内容（現状の否定ではなく肯定。根本的解決ではなく利用等）、③弱気表現（手描き風、全体ではなく部分等）としての提案傾向が見て取れた。

最優賞作品は②に属する。「負的要因」をトレンドな場に提供し、あえて「劇場化」することで再利用した案である。この点が評価され、接戦の中にあって支持を受けたと考えられる。しかし、あえて言わせてもらえば、根本的な解決への提案としては？ 近代主義的な表情では？ という疑問と一歩突っ込んだところがない不満が残る。

一方、埼玉賞作品候補はここ数年の中ではバラエティに富んだものとなった。候補作品には法的な問題はあるにしても、学生らしく無視し、そこから「何か」が生まれるかという期待感を抱かせる作品が多かった。しかし、地域との「なじませ」から密度高く規模縮小による「建築とまちづくりの地産地消」という問題提起をしたほうが良かったのではないだろうか。

彼らの世代は生まれてから今日に至るまで、経済、社会の右肩上がりには縁遠く、「停滞・閉塞」等の申し子である。「何かに寄り添う」「何かと群れる」「何かと交流・交わる」ことが身体・感覚にしみこみ、社会と既成の建築と対立し、自己主張するのではなく「なじみながら主張する建築」「優しい自己表現」（建築の草食系）する傾向になっているように思われる。

最後に、グローバリズムではなくグローカリズム。埼玉建築設計監理協会が果たす「地域型密着型卒業コンクール」からの情報発信は、埼玉県各市町村、地域における「建築・まちづくり」へのヒント、問題提起としての意義は高い。会員の皆様の地域での活躍を期待するとともに運営等に携わっていただいたことを感謝いたします。今後ともよろしくお願いたします。